

平成20年9月1日

学校だより

～ 塩っ子の夢と希望を育むために ～

No.5

高松市立新塩屋町小学校

TEL 851-2011

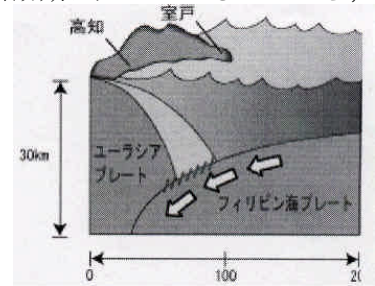
FAX 851-2059

e-mail e-sinsio@edu-tens.net

南海地震の発生確率は50%

校長 池田 保

最近よく見聞きするタイトルではないでしょうか。この南海地震は、これまでおよそ100年から150年ごとに発生し、今回は1946年に起こっています。1995年の阪神大震災以降、鳥取西部地震、01年の芸予地震、07年の能登半島地震が発生し、地震の活動期に入っていることから、次の南海地震は100年を待たず、21世紀前半に起こる（今後30年以内の発生確率 50%）と言われています。この南海地震の起きるメカニズムは、右図の2つのプレートの境界付近において、ひずみ（地震のエネルギー）がたまり、ひずみに絶える力が限界に達したとき、プレートが元にもどろうとしてはね上がることによる直下型のプレート内地震と言われています。



南海地震が発生したときの香川県への影響は、震度5～6（マグニチュード8.5）の揺れが起こり、1～3mの津波が発生し、人的・物的な大きな被害が生じると言われています。ところが、「香川は災害の少ない県で防災の必要性や緊急性を感じない」ということで、香川県民の防災意識は低いようです。また、自分は災害にあわない（悪いことを否定する正常化の偏見）、困ることを口にする現実起きてしまうといった人間の心理が働いているようで、災害に対しての弱い体質があると言われています。

間違いなく南海地震に遭遇する当事者として、最悪（被害の程度）を想定して、防災対策を行っていかねばならないといえます。防災の原点は生き残ることであり、地震に対する「備え」の考え方として、①本震・余震で「死なない けがをしない」②火災を出さない③安全かつ迅速に避難する④避難所などで当分の間、耐え忍ぶとも言われています。

県の防災対策の基本方針には、自助（自らの命は自ら守る）、共助（地域の安全は住民が助け合う）、公助（行政の支援）ということも示されています。学校では、昨年度、体育館の耐震化工事を終えました。9月3日には、地震の発生とそれに伴う出火を想定しての避難訓練を実施します。また、10月5日には、地域の防災訓練を本校運動場で行うことを聞いています。「まさか」から「もしかしたら」という、平時における災害への危機意識をもつことが大切だといえます。

今回は、生島町の香川県防災センターでの研修をもとに作成しました。地震等の災害の模擬体験ができる施設ですので、ぜひご家族で出かけてみてください。

夏休み中の子どもたちのがんばり

8月5日、親子で人権を考える会に4年生31名が参加しました。7月から夏休みの猛暑の中、ステージ練習を積み重ね、自分たちの学級のなかまづくりの実践と成果を一人一人がしっかりと発信していくことができました。本番のステージが最高のできばえで、最後の歌の場面では、会場全体から手拍子と歌声が聞こえ、ステージと客席が一体化したことが印象的でした。



<サンポートホール高松 大ホールにて>

7月22日、5年生8名・6年生6名が高松市小学校水泳記録会に参加しました。今年は渾水で水泳学習が中止になることなく、放課後の練習を続けてきました。50メートルプールで始めて泳いだ子もいましたが、自分の記録の向上をめざして、力いっぱい泳ぎきることができました。



<県立総合水泳プールにて>

7月22日、7名の子どもたちが、家庭などでの練習を続けてきた習字・硬筆の清書を行い、高松市児童競書会に作品を出品しました。

※ 7月の個人懇談会で県学習状況調査の結果をお知らせしました。同時期に実施した全国学力・学習状況調査の結果が間もなく公表されるという通知がありましたので、1学期末個人懇談会において個人の結果をお知らせいたします。